

幼童初集
毛寶華

雛鶴
一箇圖
後集

謬字改訂
新刻補圖



因盡倭文章

北野天満宮御神洗

諸人のワケに其の心を
なぶ其心よりわかく内外に
あひてわかくてわかく我
つゝ法人の我をわかく一
其れひんのわかくてわかく



神本大明神



天智天皇

秋の田舎
いづれに
まはるも
はるかに



持統天皇

春をたて
なつて
夜を
あふ



大伴黒毛
おのゝみ
とれたる
鳴き
まゐる人かお

僧正遍照
名あき
づり
口を
人

小野小町
花乃
うつ
我身
おの

左京兼平
福乃
長
お
お



柿本人麿
あ
山
尾乃
あ
お

山邊赤人
た
う
お

後丸太史
お
ふ
お



吹
お

お

お

お



お

お

お

お



お

お

お

お



たふあや



志如夢
亦空耳



わまのり



老



35



一、





坂上皇則



紀友則



春道列樹



嵯峨無風



紀貫之



文室胡康



清原深吉父



若近





要法師



大中院住持



源重之



藤原義春



高家実方親臣



藤原道信親臣



安宅道隆母



儀同三司母



ちるく道雅

食ふておもしろ
 えな人と
 ぢやうを
 人様へあそび
 してゐるがうさ



相摸さむ

うみ
 海
 ね
 社
 無
 り
 の
 成
 急
 と
 子



檢中納言宣光

船行も
 うづれ
 川きり
 走る
 走る
 走乃あふる



蘇大儒正行書

力持しむ
 阿の徳と
 六の徳と
 花の徳と
 人の徳と



すゝのゑ
園防内侍

もる乃秋の

ゆあづ

卷之五

心

朱子集注



三條院

今也

子

お

あふ

よ乃月



能因法

南

卷之四

山崎

卷之五

丹
美
人



良選法師

五



なづき

つなみ

何處又夕夕



大納言源信



源中納言匡房



源俊賴親王



藤原基俊



宗徳院



源兼光





寂蓮法師

むくさあま
はゆえ
まごのね
はれのそめ
さうさちのぢ
煉の夕ぐさ



式子内親王

玉のどよよえ
あまね
さうさち
しづか
ひさる



皇女別

あはれ
ひさる
さうさち
さうさち
さうさち



二條院

さうさち
さうさち
さうさち
さうさち
さうさち



後醍醐天皇

さうさち
さうさち
さうさち
さうさち
さうさち



鎌倉右大臣

さうさち
さうさち
さうさち
さうさち
さうさち



二條院

さうさち
さうさち
さうさち
さうさち
さうさち



二條院

さうさち
さうさち
さうさち
さうさち
さうさち



花大僧堂意圖



これ人ごまろ
うれあめ
やうやう
財もふさぎ
すもふさぎ
すもふさぎ



入道赤大政大佐



正三位家隆
風をよぶ
小川乃
ゆふれ
なるのち
なり



後鳥羽院



順徳院



女教國法々々倭文章

北野

天満宮

御神託

備人のつづき人小まうてけしとてげんとあふ
其いづつりなく内外法々々倭文章
てくわ長我羅あふぬつと後法人の我を教
小七日の内小けしあふてくわとてけしとてげんとあふ



國學倭文章

乃洲津孔原

中別浦山を渡す

たに巻く書つる

先我國と大日本帝國

種瑞穂の國もゆたけ

吉書始詩哥

長生殿裡

春秋富

不老門前

月
月
月

孝子代を

ちより

八代

五

金剛經

苦の味

天浮橋下照女神男神

初國の道なり

補鳩の天台山と圓井

御極定東西南北の四

北海の海を渡る

此乃迎都之行

天筆

和合樂

地福

皆圓滿

わらわ

えの

筆を

よる

えの

わらわ

天の國の

ゆるき

葉の

東の

海

昇

池凍東頭

風度解

窓梅北面

雪封寒

神ひら

あ

ま

の

風や

我

海

と

を

尾

つ

春ふりて
いづれに
山を
あそびて
あそびん
よめり代と
みことの
うねを
矢張り
この
里

我々も
久しかりぬ
岩のひち
つ代
るあしん



七夕の詩哥

去衣寒浪

霞應濕

行燭浸流

月欲清

芳星乃

長き

こゝし

多や

うほの

娘

まゝ東風其まじり思ふ哉

うすひの山より身そまじ

中書ひり重山紙名

何れもももや是命あ

上々國東海乃とも也

まゝ山風のまゝ長き

露應別淚

珠室落

雲是疎振

髻未成

あゝん

うほ

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

まゝ八國辺にるる濃國

境よりけし海は賊多し

けし軒並み森物夜

今の代とも大衆人の歌

まゝあゝあゝあゝあゝ

まゝあゝあゝあゝあゝ

まゝあゝあゝあゝあゝ

二星適逢未
叙別緒依
恨五夜時明
頻驚涼風颯
颯聲
病後秋の
あつや
それなほ
何んぬれ
ちきりも

あつやう城のまじし
を事やまじし
下町陸奥の羽奥
市二國て有る如陸
乃其都よりやまじし
と金七きり此陸奥衣

天くもり
あつや
うひれ
このせう
七も
えん
れい
あつや
あつや

和布川海すもりのあつや
衣た華もも薄雲ふりま
やまのれ越前かき越前
中越後と信濃のあつや
んとあつや
丹波國信丹後と中奥乃湊

七々の
 あつたふ
 こゝろひやう
 こゝろや
 こゝろ
 すゝゝき
 ぬく
 ぬく
 朝あけ
 れきこ
 うゝあ
 七々の
 なか
 りく
 けさの
 こゝろもき

川島地戸大に橋立日平元
 経系を巻ふてけりともや
 但馬の園園懐のほきそのじ
 ちあけの年を中絶云々を
 安瀬戸の浦より海村ぬふ
 契てあひちのりも今来り

天の川
 まゝの
 まゝ
 神代れ
 あきや
 こゝろ



やつたふれ國出雲國の天社年
 毎諸神集はるゝ時味春れ縁
 を結をあふり次へるや
 隠岐の國もとと知合八ヶ國
 山陰道とも地播磨共他國
 國内并他後安藝周防長

寄書假々遺

▲よぢいおとぢひ

▲上ぞわ下ぞい

上

上玄下玄

上。江。下。江。

口合虫

▲
よぐぬと。ト
あ

中ノ下ノヤ

三

三

門下は國とあて松路の傍乃

色高人腰秤也十兩盤也

山陽道是之紀伊國

名を多く知れぬが、いまだ

中々やうきおあふ玉津巻

大野珠子清江社

女人魚おんなうし 波なみ 瀬せ

浮城と云はてしなく
四重なり

ひぜん ひと ひうが ぎすく じう
 一 瓶 瓶 後 豊 泰 堂 印

北条後日守大隅薩摩乃國

そのつと對その二國紙を

温もたより西へあまふ

其たふぬ涙もふたふ
 見流しの霧と霞と
 沖雲八雲井ふゆ神乃小
 聖社と河童巻と雪の神
 と君実有難は御代ね

文化十年癸酉 正月吉日
 江戸本問屋 雙鶴堂 鶴屋金助版
 田所町

の國より五國より一用明を
 御宇の義七道道と文武を
 御宇の六拾六國より一用明を
 御宇の六拾六國より一用明を
 御宇の六拾六國より一用明を
 御宇の六拾六國より一用明を



